

<集計分析結果>

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年6月

<江別市>

目次

- 1 基本調査項目（A票） [P. 1]
 - (1) 世帯類型 [P. 1]
 - (2) 家族等による介護の頻度 [P. 1]
 - (3) 主な介護者の本人との関係 [P. 2]
 - (4) 主な介護者の性別 [P. 2]
 - (5) 主な介護者の年齢 [P. 3]
 - (6) 主な介護者が行っている介護 [P. 4]
 - (7) 介護のための離職の有無 [P. 5]
 - (8) 保険外の支援・サービスの利用状況 [P. 6]
 - (9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス [P. 7]
 - (10) 施設等検討の状況 [P. 7]
 - (11) 本人が抱えている傷病 [P. 8]
 - (12) 訪問診療の利用の有無 [P. 9]
 - (13) 介護保険サービスの利用の有無 [P. 9]
 - (14) 介護保険サービス未利用の理由 [P. 10]
- 2 主な介護者様用の調査項目（B票） [P. 11]
 - (1) 主な介護者の勤務形態 [P. 11]
 - (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況 [P. 12]
 - (3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 [P. 13]
 - (4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 [P. 14]
 - (5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 [P. 15]
- 3 要介護認定データ [P. 16]
 - (1) 年齢 [P. 16]
 - (2) 性別 [P. 16]
 - (3) 二次判定結果（要介護度） [P. 17]
 - (4) サービス利用の組み合わせ [P. 17]
 - (5) 訪問系サービスの合計利用回数 [P. 18]
 - (6) 通所系サービスの合計利用回数 [P. 19]
 - (7) 短期系サービスの合計利用回数 [P. 20]
 - (8) 障害高齢者の日常生活自立度 [P. 20]
 - (9) 認知症高齢者の日常生活自立度 [P. 21]

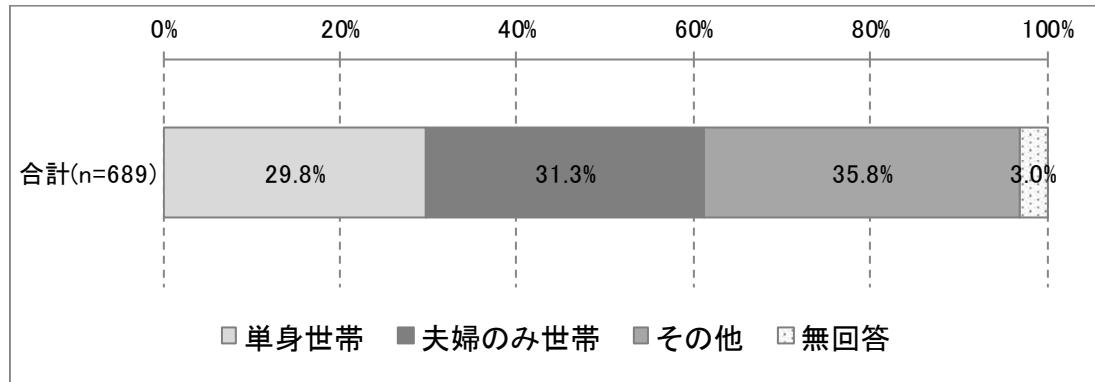
※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目 (A票)

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く35.8%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯(31.3%)」、「単身世帯(29.8%)」となっている。

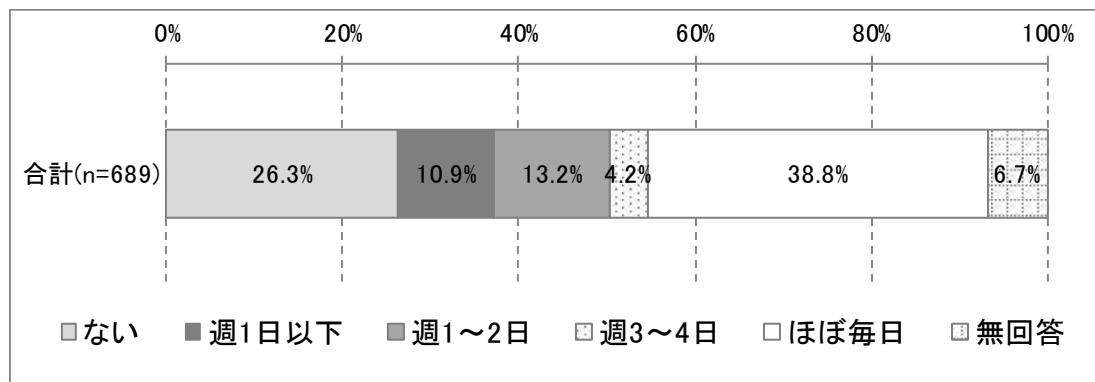
図表1-1 世帯類型(単数回答)



(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く38.8%となっている。次いで、「ない(26.3%)」、「週1~2日(13.2%)」となっている。

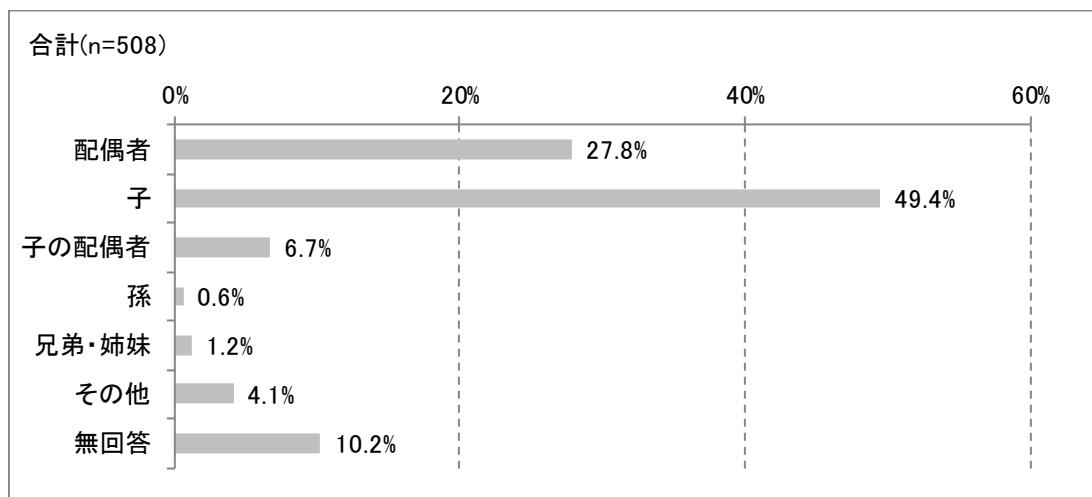
図表1-2 家族等による介護の頻度(単数回答)



(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く49.4%となっている。次いで、「配偶者(27.8%)」、「子の配偶者(6.7%)」となっている。

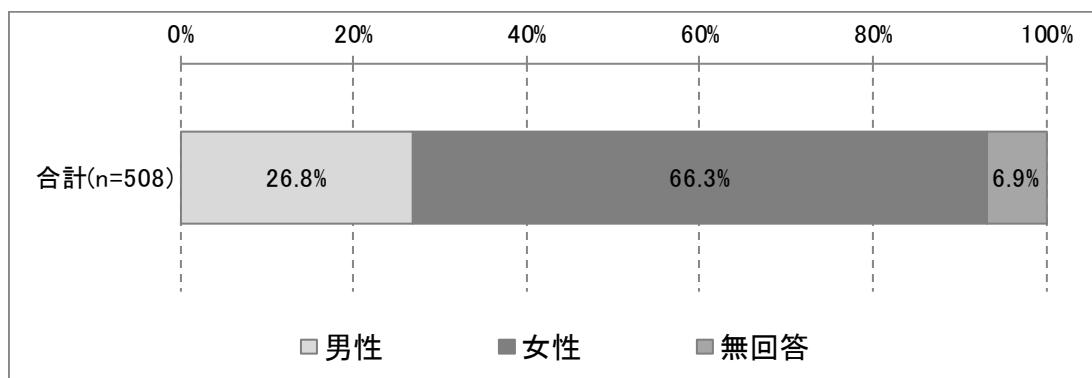
図表1-3 ★主な介護者の本人との関係(単数回答)



(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く66.3%となっている。次いで、「男性(26.8%)」となっている。

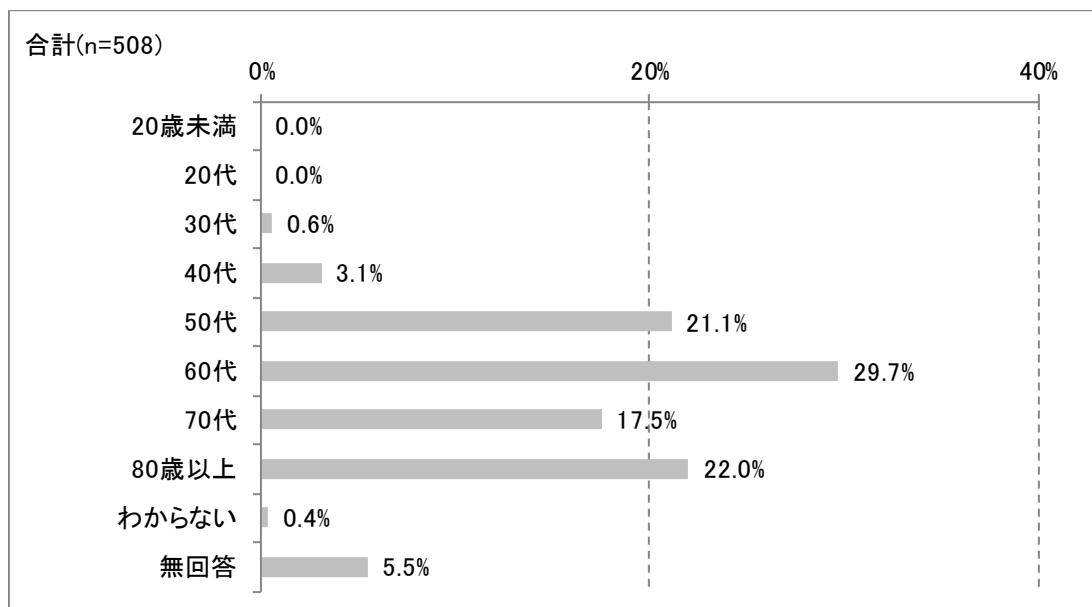
図表1-4 ★主な介護者の性別(単数回答)



(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く29.7%となっている。次いで、「80歳以上(22.0%)」、「50代(21.1%)」となっている。

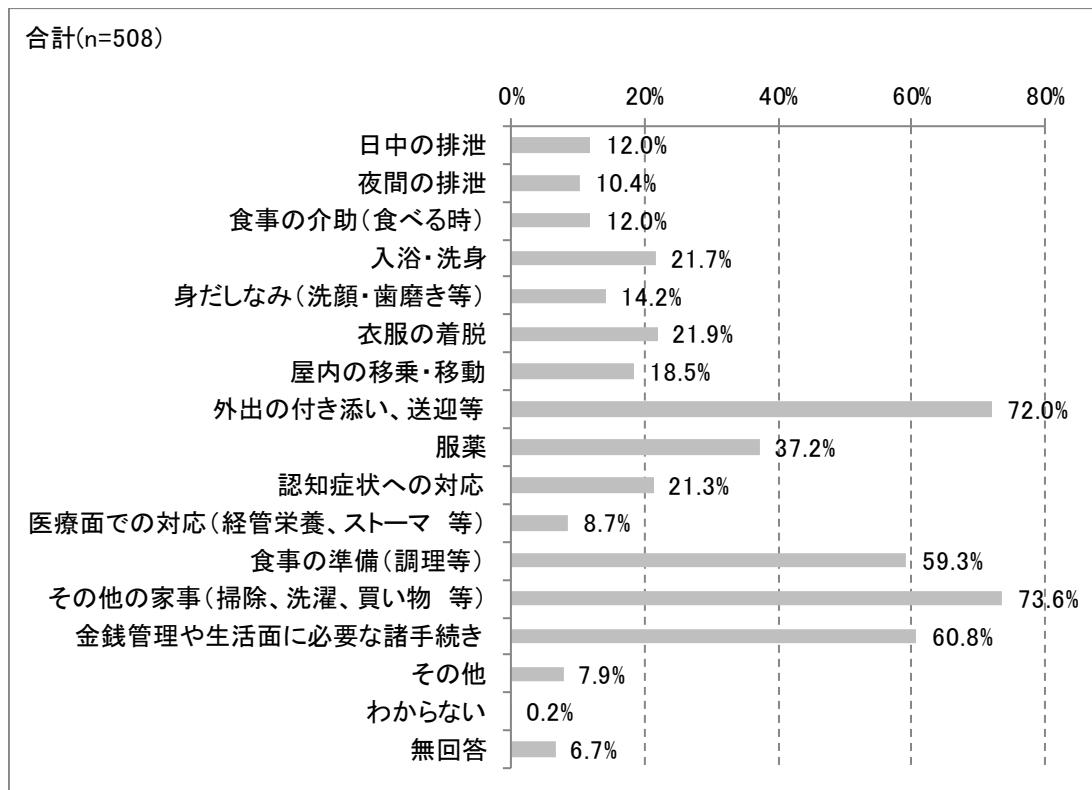
図表1-5 主な介護者の年齢(単数回答)



(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 73.6% となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（72.0%）」、「金錢管理や生活面に必要な諸手続き（60.8%）」となっている。

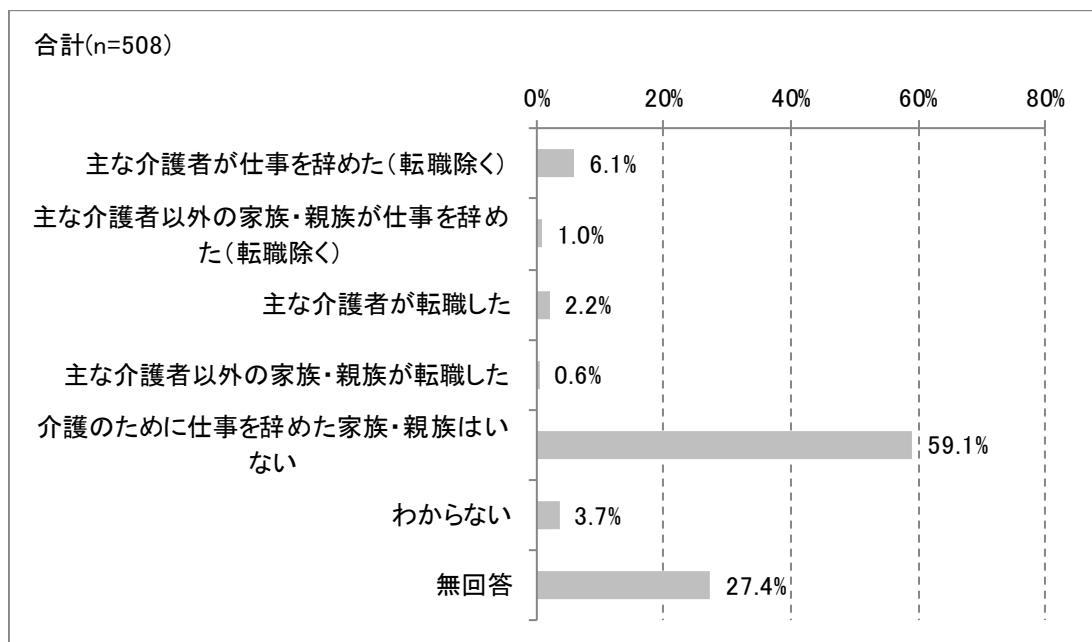
図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 59.1%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（6.1%）」、「わからない（3.7%）」となっている。

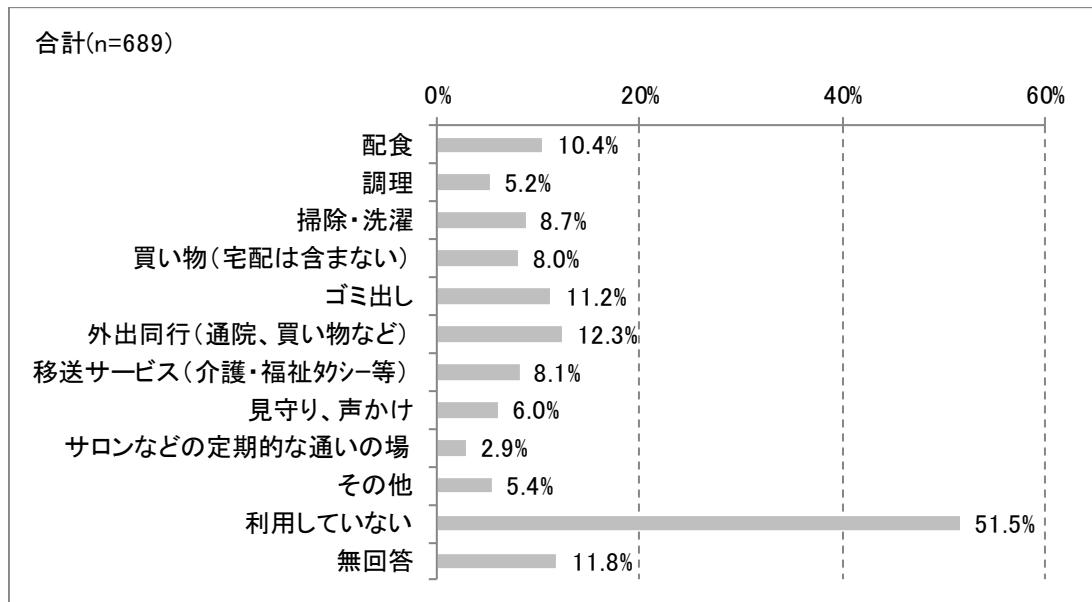
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く51.5%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（12.3%）」、「ゴミ出し（11.2%）」となっている。

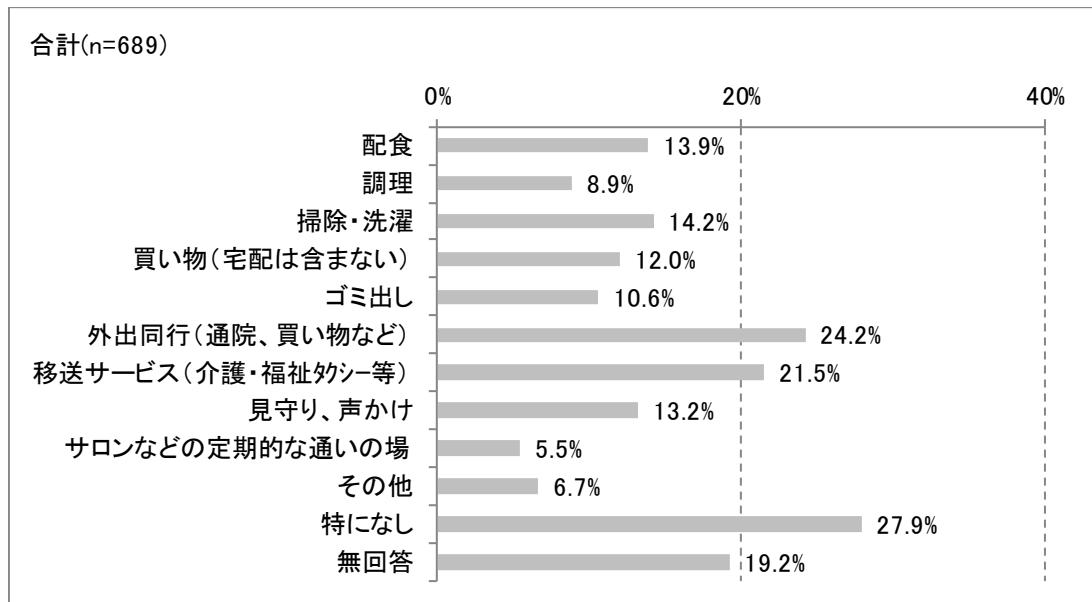
図表1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く27.9%となっている。次いで、「外出同行（通院、買い物など）（24.2%）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（21.5%）」となっている。

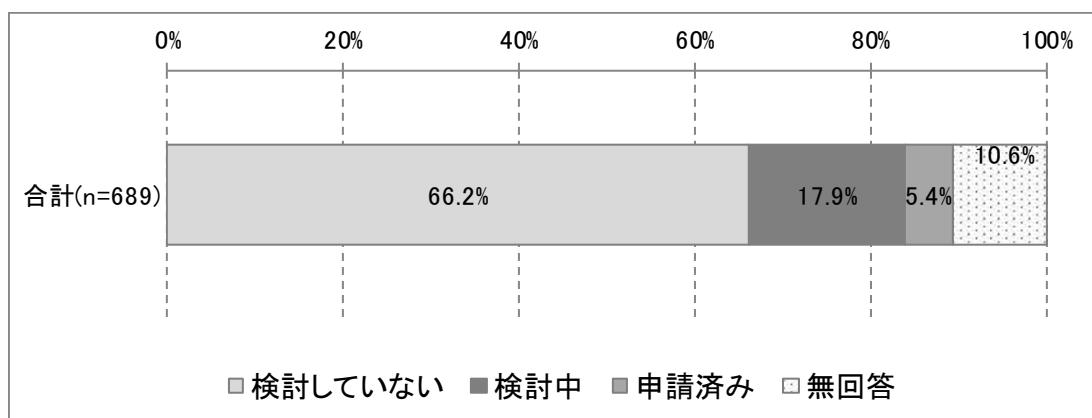
図表1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く66.2%となっている。次いで、「検討中（17.9%）」、「申請済み（5.4%）」となっている。

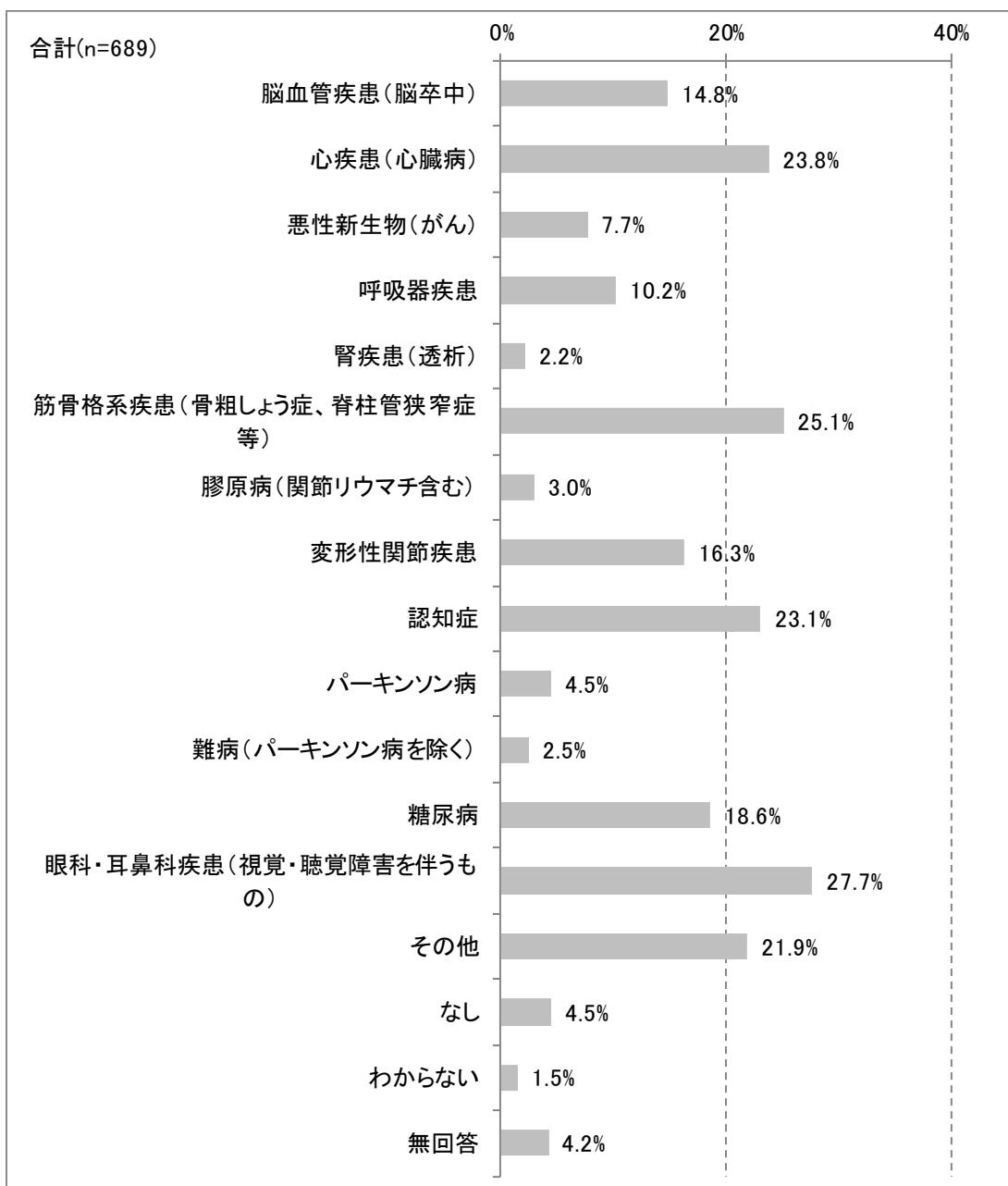
図表1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(11) 本人が抱えている傷病

「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」の割合が最も高く27.7%となっている。次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）（25.1%）」、「心疾患（心臓病）（23.8%）」となっている。

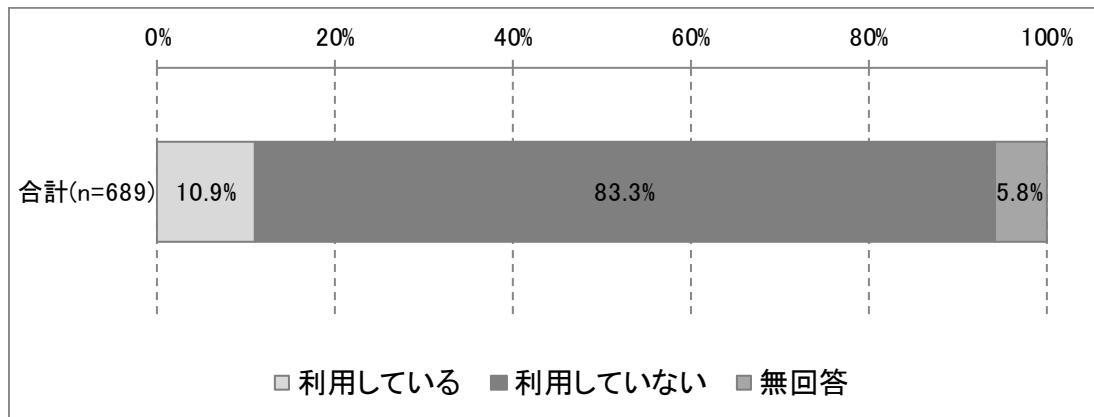
図表1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 83.3%となっている。次いで、「利用している(10.9%)」となっている。

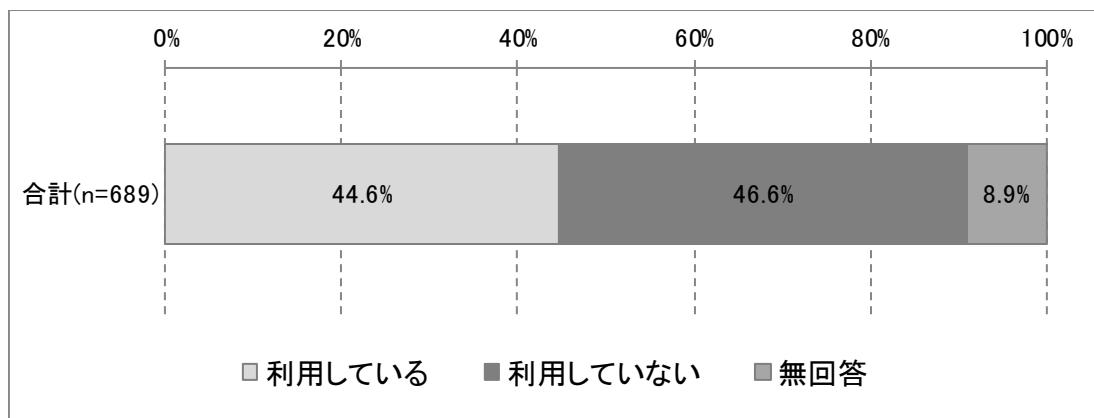
図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無 (単数回答)



(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 46.6%となっている。次いで、「利用している(44.6%)」となっている。

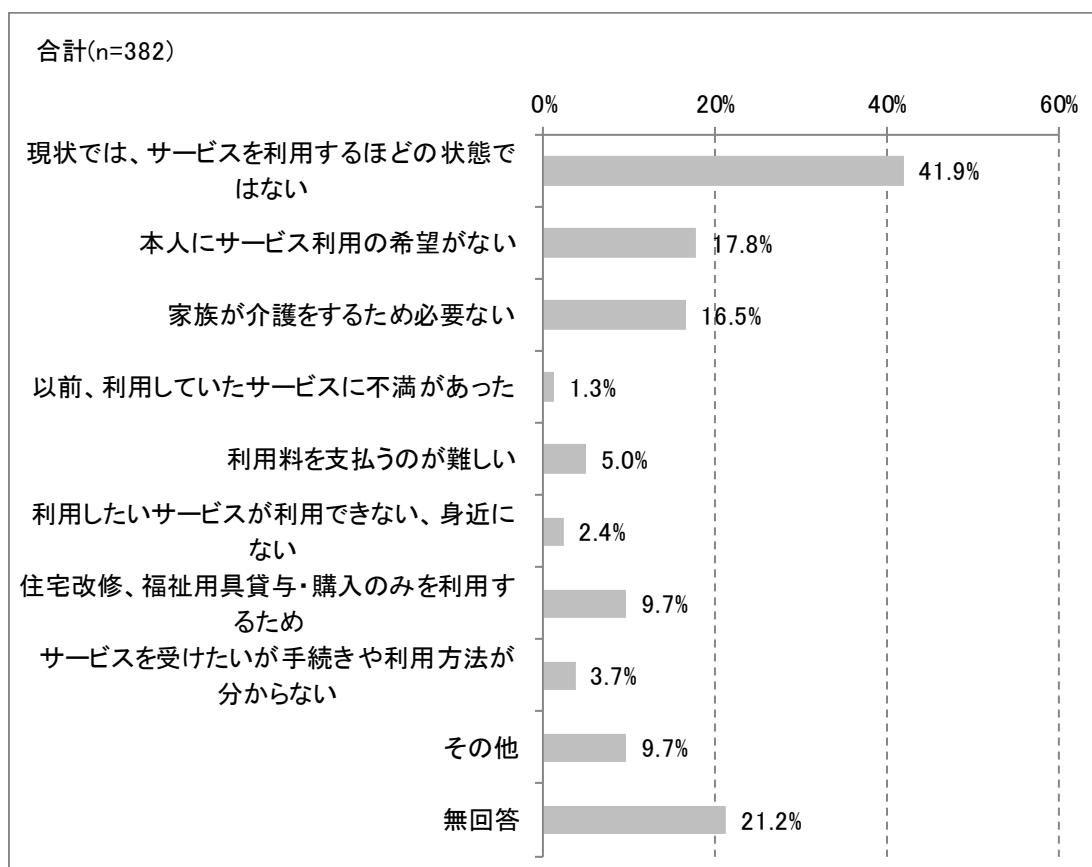
図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無 (単数回答)



(14) 介護保険サービス未利用の理由

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が最も高く41.9%となっている。次いで、「本人にサービス利用の希望がない（17.8%）」、「家族が介護をするため必要ない（16.5%）」となっている。

図表1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

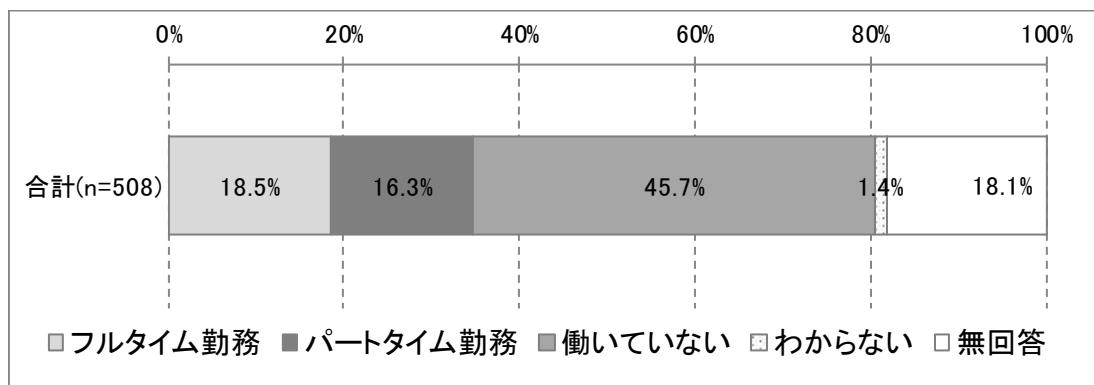


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

（1）主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 45.7% となっている。次いで、「フルタイム勤務（18.5%）」、「パートタイム勤務（16.3%）」となっている。

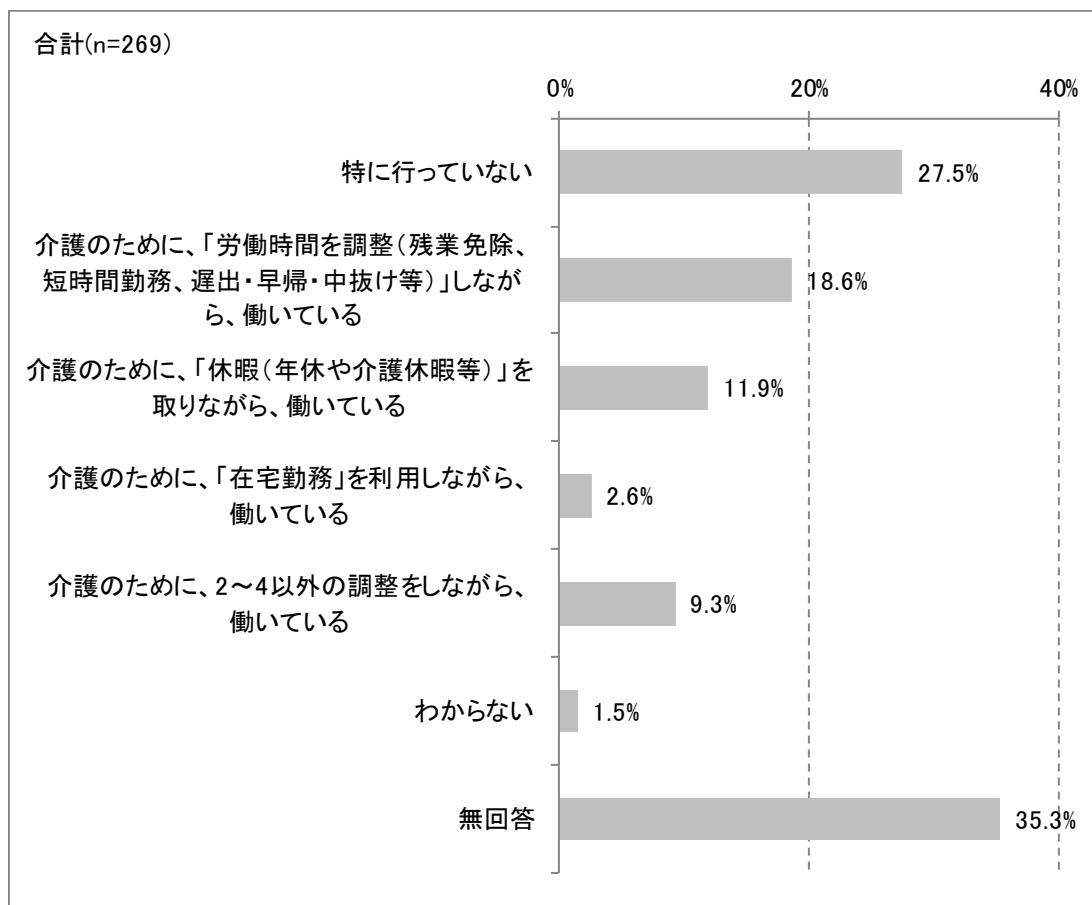
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特にやっていない」の割合が最も高く 27.5% となっている。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている（18.6%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（11.9%）」となっている。

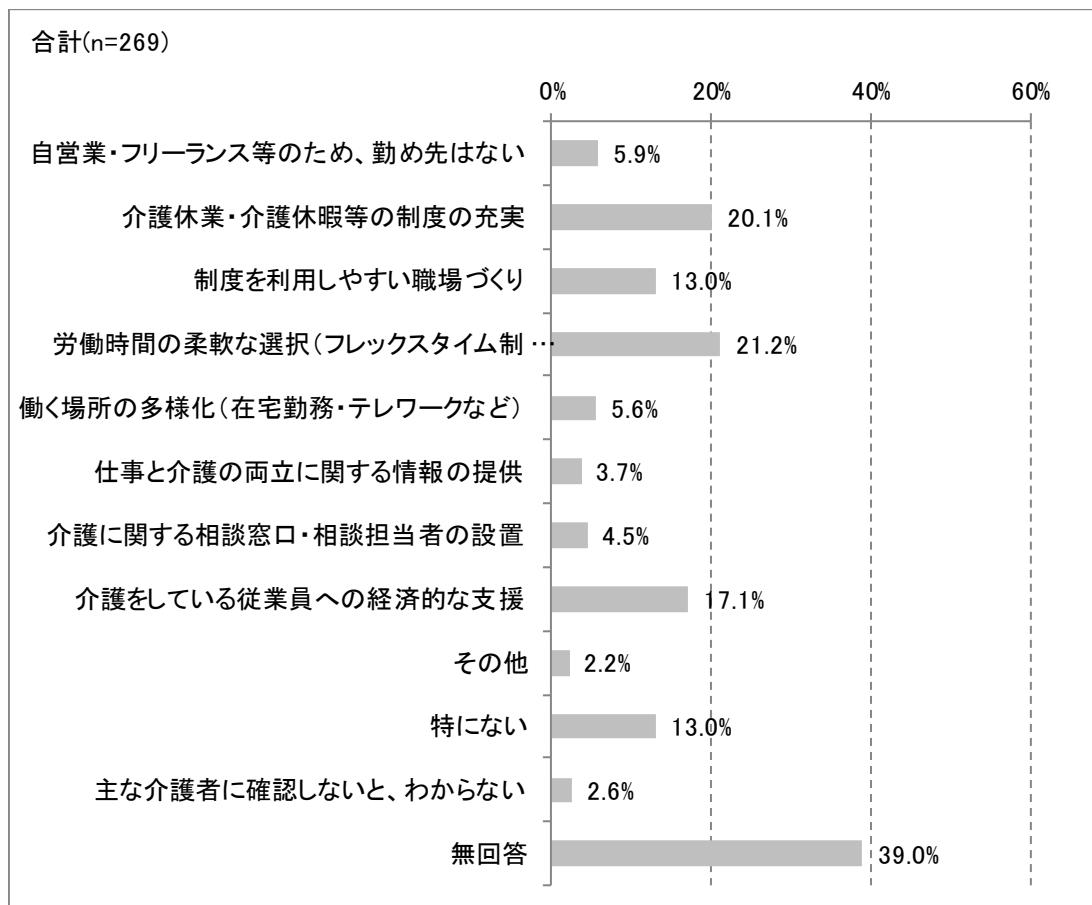
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」の割合が最も高く21.2%となっている。次いで、「介護休業・介護休暇等の制度の充実（20.1%）」、「介護をしている従業員への経済的な支援（17.1%）」となっている。

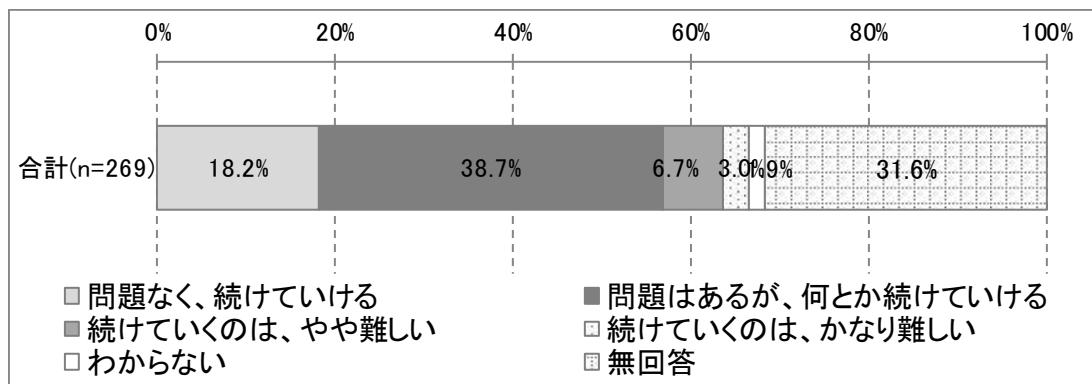
図表2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 38.7% となっている。次いで、「問題なく、続けていける (18.2%)」、「続けていくのは、やや難しい (6.7%)」となっている。

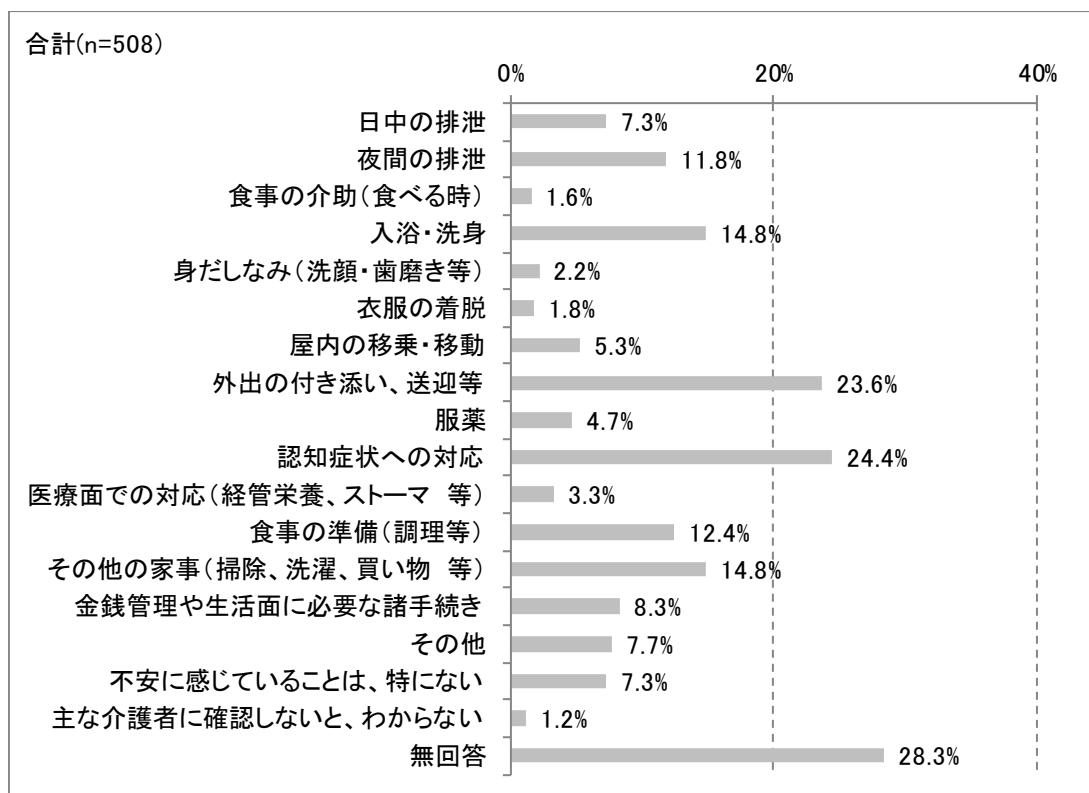
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「認知症状への対応」の割合が最も高く24.4%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等(23.6%)」、「入浴・洗身(14.8%)」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)(14.8%)」となっている。

図表2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護(複数回答)

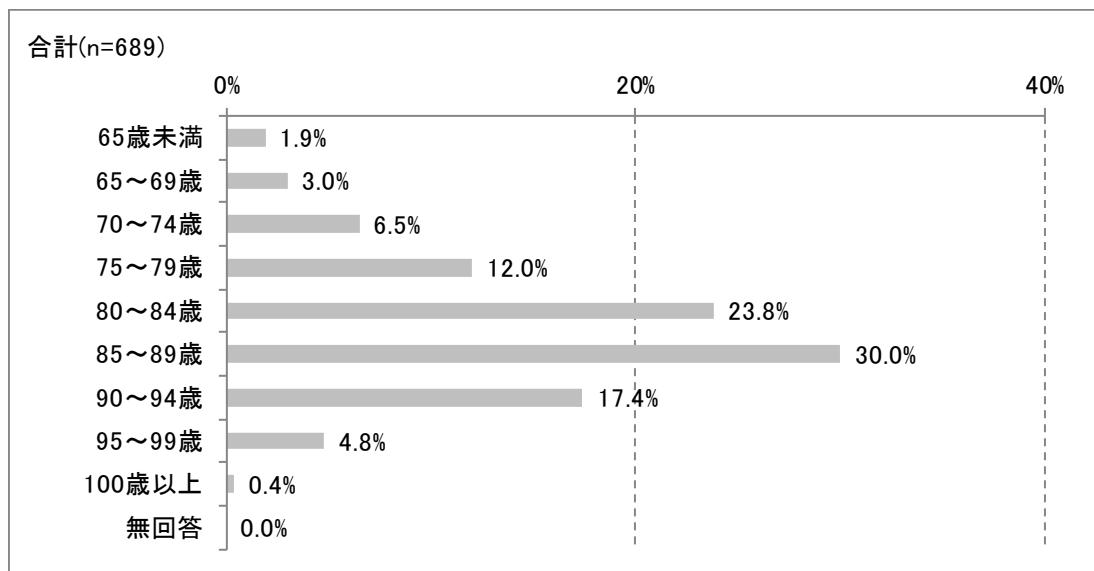


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く30.0%となっている。次いで、「80～84歳(23.8%)」、「90～94歳(17.4%)」となっている。

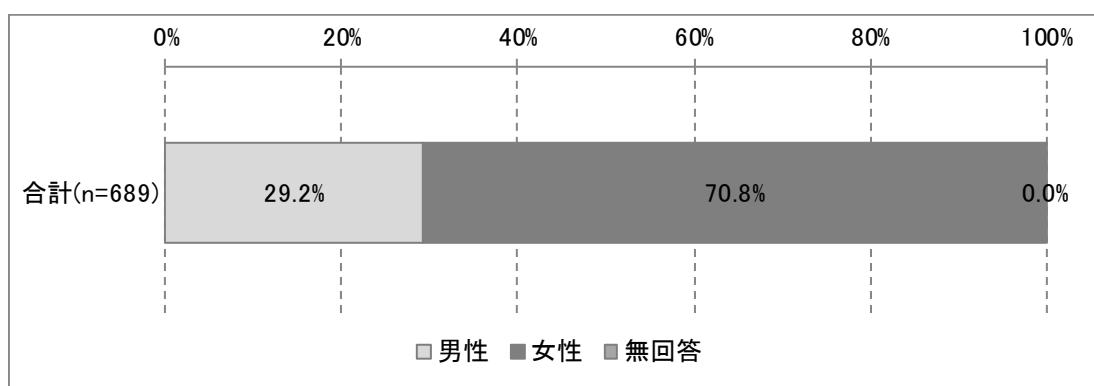
図表3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く70.8%となっている。次いで、「男性(29.2%)」となっている。

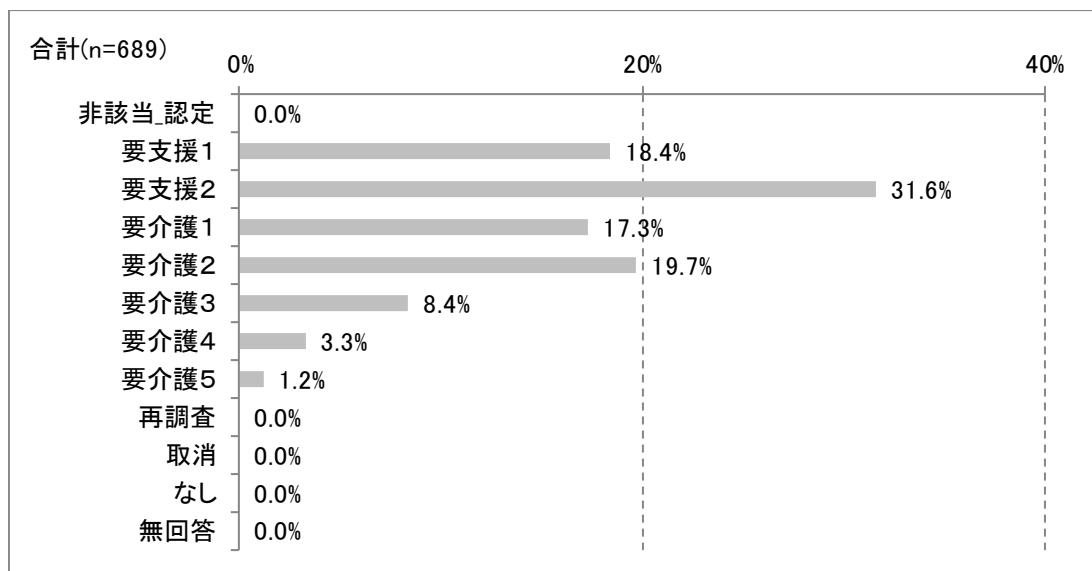
図表3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援2」の割合が最も高く31.6%となっている。次いで、「要介護2（19.7%）」、「要支援1（18.4%）」となっている。

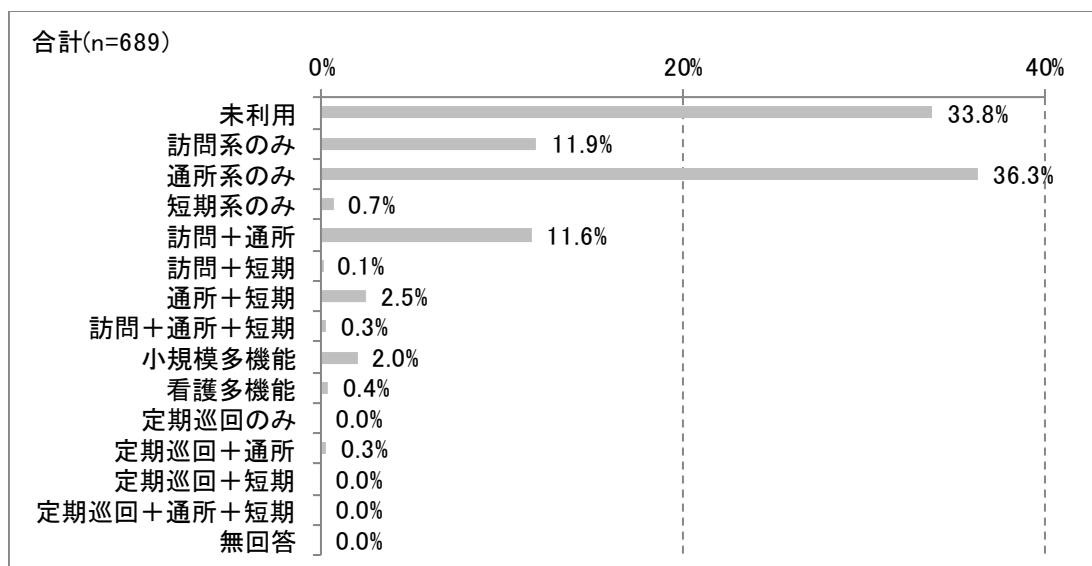
図表3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く36.3%となっている。次いで、「未利用（33.8%）」、「訪問系のみ（11.9%）」となっている。

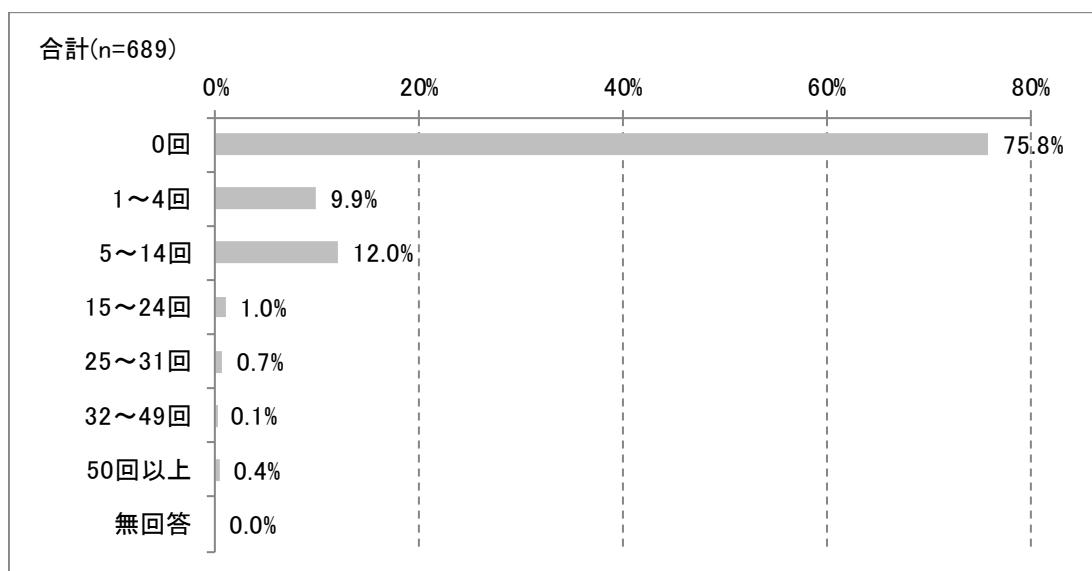
図表3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く75.8%となっている。次いで、「5~14回(12.0%)」、「1~4回(9.9%)」となっている。

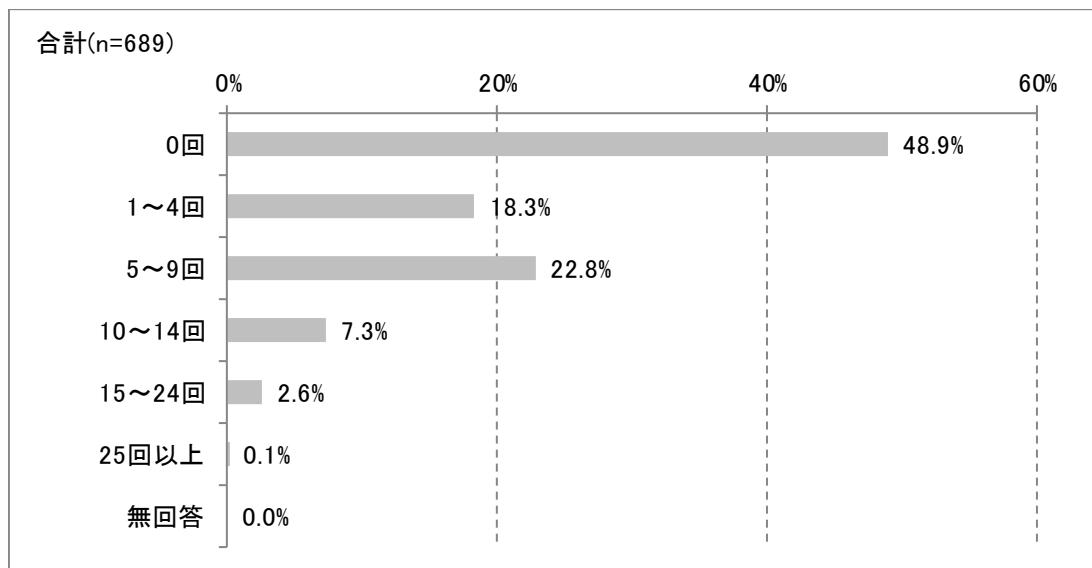
図表3-5 サービスの利用回数(訪問系)



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く48.9%となっている。次いで、「5~9回(22.8%)」、「1~4回(18.3%)」となっている。

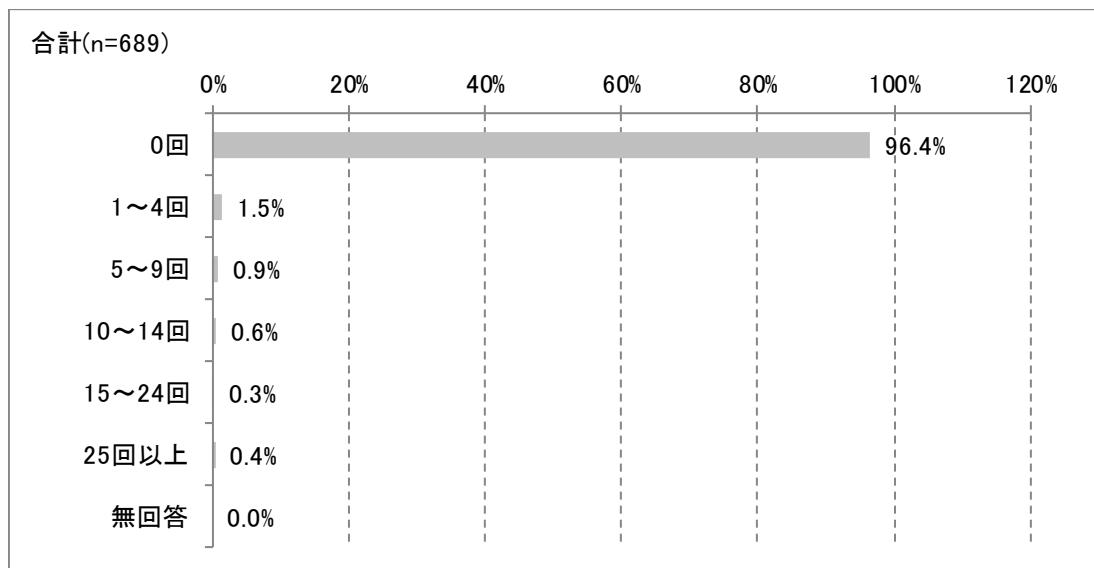
図表3-6 サービスの利用回数(通所系)



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く96.4%となっている。次いで、「1~4回(1.5%)」、「5~9回(0.9%)」となっている。

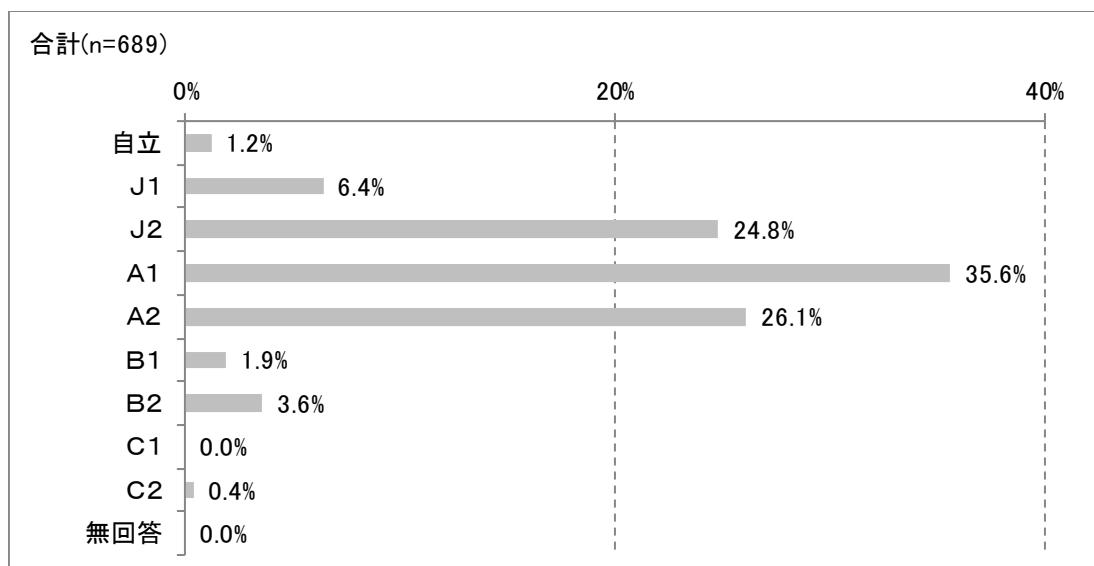
図表3-7 サービスの利用回数(短期系)



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A1」の割合が最も高く35.6%となっている。次いで、「A2(26.1%)」、「J2(24.8%)」となっている。

図表3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「I」の割合が最も高く30.8%となっている。次いで、「自立(27.4%)」、「II b(19.3%)」となっている。

図表3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

